

JAEF REPORT

平成25年10月5日

(公財)日本自動車教育振興財団 活動報告

年4回発行(1,4,7,10月)

【目次】

- ◆ 自動車教育用教材の提供対象校・内容を決定
- ◆ 第89～91回JAEF研修会を開催
- ◆ 21都道府県(38件)の研修会に講師を派遣

- ◆ 自動車技術教育を支援
- ◆ 国内交通調査を実施
- ◆ 欧州交通事情調査を実施

平成25年度自動車教育用教材の提供対象校・内容を決定

・・・8月6日

技術教育

財団は、平成25年8月6日に審査委員会（木村寛治委員長）を開催し、今年度の技術教育支援事業として、合計86校の高等学校へ自動車教育用教材を提供することを決定した。

本年度の公募対象は、18県の全国工業高等学校長協会、全国総合学科高等学校長協会、全国自動車教育研究会の加盟校計270校で、6月上旬に案内を行った結果、86校から応募があった。審査委員会で選考の結果、応募全校に対して提供することとした。提供教材は、基礎教育用の視聴覚教材（CD-ROM教材、掛図教材など）から、初級教育用の分解組立用エンジンや工具類、更には中・上級用の実験実習用教材（エンジンベンチ・故障診断機など）に至るまで、一部見直しを行いながら、計27品目の選択肢を用意した。

学校への教材納入は9月～11月に実施する。また11月～12月には、該当する県ごとに、各県自動車教育推進協議会の協力を得て、提供校への教材贈呈式を実施する予定である。

なお、平成3年度からの累計提供校数は、1,441校となる。



▲提供機材例(1300ccエンジン)

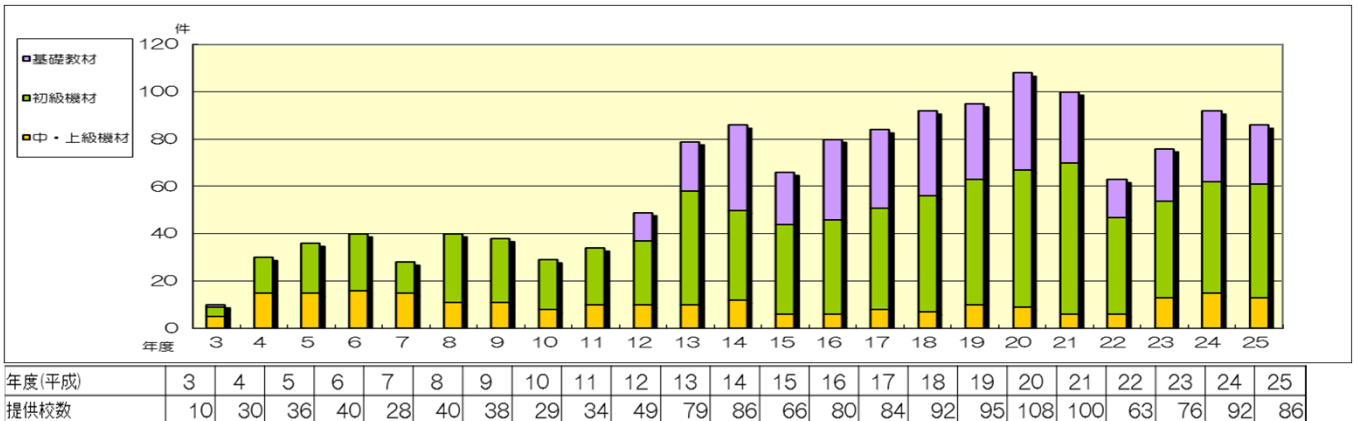
【25年度公募対象県と県別提供校数】

- 秋田県(7)、山形県(3)、群馬県(4)、山梨県(2)、新潟県(1)、長野県(6)、徳島県(4)、香川県(5)、愛媛県(4)、高知県(5)、福岡県(11)、佐賀県(4)、長崎県(4)、熊本県(4)、大分県(6)、宮崎県(4)、鹿児島県(6)、沖縄県(6)

()内の数字は県別の提供校数

計18県 86校

【年度別提供校推移表】



INFORMATION

10～12月予定

- 平成25年度自動車教育用教材贈呈式を実施 10月中旬～12月上旬
- 20道県(28件)の研修会に講師を派遣 10月～12月
- 各委員会・部会を開催 10月下旬～11月中旬
- 第92回JAEF研修会を開催 11月22日

第89～91回JAEF研修会を開催

・・・7月31日～8月28日

研修

財団は、全国の高等学校の先生方を対象とした第89回～91回JAEF研修会を開催し、全国から113名の先生方（社会科系17名、工業系62名、その他34名）とオブザーバー1名の合計114名が参加した。

今年度のJAEF研修会は、これまでに「交通安全」をテーマとしたもの <第89回：交通安全の為にスキルとマインド（交通安全と環境に対する配慮）>、「環境と交通インフラ」をテーマとしたもの <第90回：豊田市低炭素社会システム実証と都市交通システム「ハーモ」について>、「自動車の安全新技術」をテーマとしたもの <第91回：軽自動車技術の歴史と新技術（スマートアシスト）>の3回の講演を開催した。また、これらの講演会と合わせて、講演テーマに沿った関連施設見学などを実施し、各回とも参加した先生方から高い評価を得ることができた。

「交通安全」に関する研修会（第89回）では、「事故を未然に防ぐには、思いやりの心で運転することが重要との講師の話に感銘した」など、講師の分かりやすい解説が好評であった。「環境とインフラ」に関する研修会（第90回）では「次世代の交通システムを知ることができてよかった」「実証実験の具体的な取り組み内容と現在の進捗状況および将来計画を知ることができてよかった」などの感想が多く寄せられた。

「自動車の新技術」に関する研修会では、「他国ではまねのできない日本独自の軽自動車の開発の歴史を知れてよかった」「低価格を維持する中で、登録車両と同様の安全対策（スマートアシスト）や低燃費を実現させた技術水準の高さに驚いた」などの感想が寄せられた。

また、施設見学・実習については、「通常ではできない時速100kmでのフルブレーキなどが体験できてよかった」（第89回）、「街ぐるみで取組んでいる豊田市の低炭素社会システム実証施設を見学して、その素晴らしさに驚いた」「ガソリンエンジンでは世界初のクラシックカーの走行見学や過去の世界の名車を実際に見ることができるとヨコヤ博物館は素晴らしい」（第90回）、「衝突回避支援ブレーキや誤発進抑制制御機能などのスマートアシスト機能を体験することができてよかった」「低燃費走行体験では、アクセルの踏み方で燃費が大きく変化することがわかり、今後の運転に生かしたい」（第91回）など、各研修会とも多くの参加者からは、「参加して大変満足した」との高い評価を得ることができた。

ご協力いただいた企業・関係団体ならびに講師の皆様には、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



▲第89回JAEF研修会の様子



▲第90回JAEF研修会の様子



▲第91回JAEF研修会の様子

【平成25年度JAEF研修会開催実績・予定】

区分	実施回	日程・場所	講演テーマ・講師	見学施設・体験等	参加者 (名)
実績	第89回	7月31日(水)	(講演) 交通安全の為にスキルとマインド —交通安全と環境に対する配慮—	(実習) 安全運転トレーニング ・慣熟走行、運転姿勢 ・高速フルブレーキング、 ・低ミュー路ブレーキング	31
		静岡県駿東郡	(講師) トヨタ安全運転トレーニングセンター モビリティ チーフトレーナー 神野 利夫 氏		
	第90回	8月20日(火)	(講演) 豊田市低炭素社会システム実証と 都市交通システム「ハーモ」について	(見学) とよたエコフルタウン ・実証施設見学、モビリティ試乗 (見学) トヨタ博物館 ・クラシックカー走行、展示車両	45
		愛知県長久手市	(講師) トヨタ自動車(株) IT・ITS企画部 都市交通システムグループ長 早田 敏也 氏		
	第91回	8月28日(水)	(講演) 軽自動車の歴史と新技術(スマートアシスト)	(実習) スマートアシスト体験試乗 ・低速域衝突回避支援ブレーキ機能 ・誤発進抑制制御機能 ・低燃費走行、アイドリングストップ機能	38
		滋賀県蒲生郡	(講師) ダイハツ工業(株) 製品企画部 チーフエンジニア 中島 雅之 氏		
実績合計(名) (オブザーバー含む)					114
予定	第92回	11月22日(金)	(講演) ～人間主体のASVとITS～ 「ぶつからないクルマ」に見る先進安全技術	(見学) 第43回東京モーターショー	100
		東京都江東区	(講師) モータージャーナリスト (有)ナック 代表取締役 西村 直人 氏		
実績見込合計(名)					214

21都道府県(38件)の研修会に講師を師派遣

・・・7月～9月

研修

財団は、県教育研究会、高等学校から要請を受け、21都道府県（38件）の研修会に専門の講師を派遣した。その結果、1万5千名を超える研修会受講者から、高い評価をいただくことができた。

内容は、交通安全に関する講師派遣の要請が32件、自動車の最新技術・整備技術に関する講師派遣の要請が6件であった。交通安全の講師に関しては、（一社）日本自動車連盟の各支部に、また、自動車の最新技術の講師は、各県の販売店各社に、整備技術の講師は各県の自動車整備振興会にそれぞれご協力をいただいた。

交通安全に関する研修会の受講者からは、「動画や画像が多く取り入れられているなど、生徒にとっても大変わかりやすい講演でよかった」などの感想が寄せられた。

また、自動車の最新技術・整備技術に関する研修会においても参加者から高い評価をいただくことができた。具体的には「ハイブリッド車の構造・仕組みについては、実車を持ち込んでもらったため、現物を見ながらの説明で理解を深めることができた」、「電子制御エンジンの構造と点検・整備については、既存の教材を使用している研修であったため、これまでの疑問の多くを解消することができ、今後生徒を指導するうえで大変参考になった」などの評価をいただいた。

講師の派遣にご協力いただいた、各県の自動車教育推進協議会および関係団体の皆様には、紙面をお借りして御礼申し上げます。（詳細は別紙参照）



▲鳥取県立皆生養護学校での講師派遣の様子



▲沖縄県工業教育研究会自動車部会での講師派遣の様子

自動車技術教育を支援

・・・8月

財団運営

財団は、自動車技術教育や交通社会教育の推進に関わる高等学校の取り組みを支援している。8月1日～3日に全国ソーラーラジコンカーコンテストが石川県白山市で開催された。全国ソーラーラジコンカーコンテストは、今年で20回目を迎え、全国の工業高校から97チームが参加して自作のソーラーラジコンカーの性能と操作テ

クニックを競い合うとともに学業成果の発表の場として熱戦が繰り広げられた。石川県自動車教育推進協議会は同コンテストに立ち会うと共に、優秀な成績を収めた金沢市立工業高等学校の「Messenger2013」チームへ、石川県自動車教育推進協議会常務理事の坂本成司氏が「日本自動車教育振興財団賞」を授与した。



▲ソーラーラジコンカーコンテストの様子



▲上段 ソーラーラジコンカーサーキット場の様子
▲下段 表彰式

国内交通調査を実施

・・・ 8月7日、31日

調査研究

財団は、交通社会教育に係る情報提供の一環として国内の交通調査を実施している。今回は、若者のクルマ離れが言われる中で、近年急拡大しているカーシェアリングに焦点を当て、最大手のパーク24（カーシェアリングのタイムズカープラスを運営）へのヒアリングを実施するとともに、利用者へのインタビューを行なった。都市部においては駐車場代などの維持コストが高く、公共交通が発達しているため若者がクルマと触れ合い、利用する機会が減っている。近年急拡大をしているカーシェアリングが、そのような若者の受け皿となり新たなクルマ利用のあり方ができているのか探った。

パーク24によると、タイムズカープラスは全国約4,000カ所のタイムズ駐車場でカーシェアリングを行っており、会員数は約23万人で、この1年間でほぼ倍増している。また、会員の6割は20代・30代の若者であるという。東京都内で近年マンション建設が進んでいる江東区豊洲にあるカーシェアリングステーション（9台のカーシェアリング車両あり）に赴き利用状況を調査した。週末は9台の車両がフル稼働している状況である。30代男性は、従来は電車での移動で十分だったが、子供ができて買い物やレジャーで外出するのにクルマが便利ということでカーシェアリングを利用し始めたという。また、身重の奥さんを病院に送迎するのにカーシェアリングを利用しているという人もいた。

今回の調査により、気軽に利用でき経済性に優れたカーシェアリングが今後普及することで、クルマ保有をあきらめている若者のクルマ利用が増えていくことが予想される。そしてカーシェアリングの更なる利用拡大のためには、ステーション数や車両台数の一層の増加とともに、欧米で増加している乗り捨て型カーシェアリングシステムによる利便性の向上、そのための中継法等の規制緩和などが求められる。



▲小さい子供を連れてレジャーに出かける30代のカーシェアリング利用者

欧州交通事情調査(独・仏)を実施

・・・ 7月17日～30日

調査研究

財団は、調査研究事業の一環として欧州（ドイツ、フランス）交通事情調査を7月に実施した。今回は、クルマと公共交通の共存策としてのパーク&ライド、新しい公共交通インフラとして拡大しているカーシェアリング事情、クルマ文化等を調査した。

ドイツ、フランスともクルマ、公共交通機関、自転車に対する交通施策を一体的に実施しているのが印象的であった。郊外にパーク&ライド駐車場をつくり、中心市街地へは公共交通機関や自転車で移動する交通網体系が出来上がっている。ドイツのパーク&ライド駐車場は無料であり、フランス・ストラスブールでは駐車場代はかかるものの、トラムの往復乗車券がもらえるため駐車場代が実質的に無料となるなど、公共交通への誘導を積極的に行なっている。

カーシェアリングについては、ドイツ各都市やパリでの「乗り捨て方式」が急速に普及している様子がうかがわれた。ドイツのカーシェアリング登録者数は、2013年1月時点で45万人、登録台数は1万2千台で、2012年の1年間で2倍近く増加している。この急増の背景には、ダイムラー、BMW、VWのドイツ3大自動車メーカーがカーシェアリングに本格参入したことがある。3社のカーシェアリングの特徴は、クルマを借りたステーション以外のステーションや道路脇などに返却できる「乗り捨て方式」という新しい利用形態を採用したことで、この利便性がユーザーに受け入れられた結果、カーシェアリングが一気に拡大したと考えられる。フランス・パリでは2011年12月にオートリブという電気自動車カーシェアリングがスタートし、現在約3,000台の車両が配備されている。道路の駐車帯の一部をオートリブ専用駐車帯にし、借りた場所以外のステーションに返却可能である。また、「1日」、「1週間」、「1カ月」、「1年」と多彩なコースを設定し、観光客も利用できるようになっているのはパリならではである。

クルマ先進国であるドイツでのクルマ文化を探るべく、耐久レースが開催されているニュルブルクリンクというサーキットや自動車博物館を視察した。最も印象的だったのは、ニュルブルクリンクは平日夕方や週末が低料金で一般開放されており、しかも一般ドライバーのサーキット走行を見学する若者や子供が多く見受けられたことである。トレーラーハウスで来ている家族もあり、モータースポーツがまさに大衆レジャー化している様子がうかがわれた。

ニュルブルクリンク。コース脇の広場には多くの見物客が見られた。



▲ケルン：ホームに隣接した立体式パーク&ライド駐車場。



▲パリの電気自動車カーシェアリング。路上駐車帯の一部がステーションになっている。充電スタンドを装備。



▲ニュルブルクリンク。コース脇の広場には多くの見物客が見られた。